



豪州準備銀行の政策金利据え置きと豪ドル相場

- 豪州準備銀行(RBA)は政策金利を2.50%で据え置き。慎重な雇用見通しから、中立的な金融政策姿勢も維持。
- 非製造業の設備投資意欲の改善は、景気回復の進展を示唆。市場関係者は2015年上半期の利上げ転換を予想。
- 豪ドルの対円相場は足元で97円台へ上昇。RBAの豪ドル高への警戒姿勢でも、豪ドル相場は安定を維持する傾向。
- 世界的な低金利環境の中、利回り追求に着目した証券投資の流入が豪ドル相場の下支え役となると期待。

慎重な雇用見通しから、中立的政策姿勢を維持

豪州準備銀行(RBA)は9月2日の理事会において、政策金利を2.50%で据え置く決定をしました(図1)。

スティーブンスRBA総裁の声明文では、金融政策の先行き判断について、「現状では一定期間の金利安定が賢明」とする中立的な姿勢が維持されました。足元の失業率の上昇を受けた、慎重な雇用見通しが背景にあると考えられます。声明文では「労働市場は依然として一定の余剰労働力を抱えており、失業率が継続的な低下に転じるにはなお時間を要する」との言及がなされました。

非製造業を中心に設備投資意欲が改善基調

一方、豪州景気の現状に関しては、足元でのビジネス環境の緩やかな改善や消費者心理の回復から、豪州景気の緩やかな拡大が続いているとの見方が示されました。

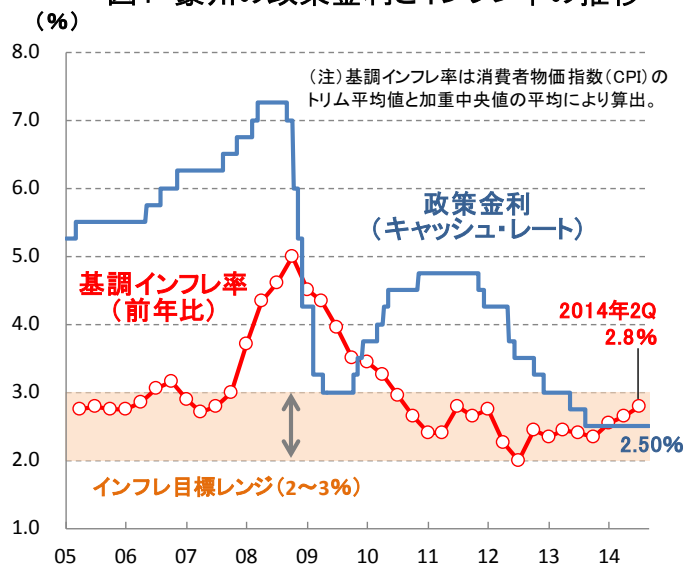
RBA理事会声明文でも指摘されたように、資源ブームの一巡によって豪州の鉱業セクターの設備投資は大きく減少し始めたものの、非鉱業セクターでの設備投資意欲が改善基調にあることは豪州景気の回復の進展を示唆するものと考えられます。

実際、2014年4-6月の民間設備投資は、非製造業にけん引されて前期比+1.1%の増加に転じました(図2)。また、非製造業では、2014-15年度の設備投資計画を緩やかに上方修正する傾向も続いています。

市場関係者は2015年上半期の利上げを予想

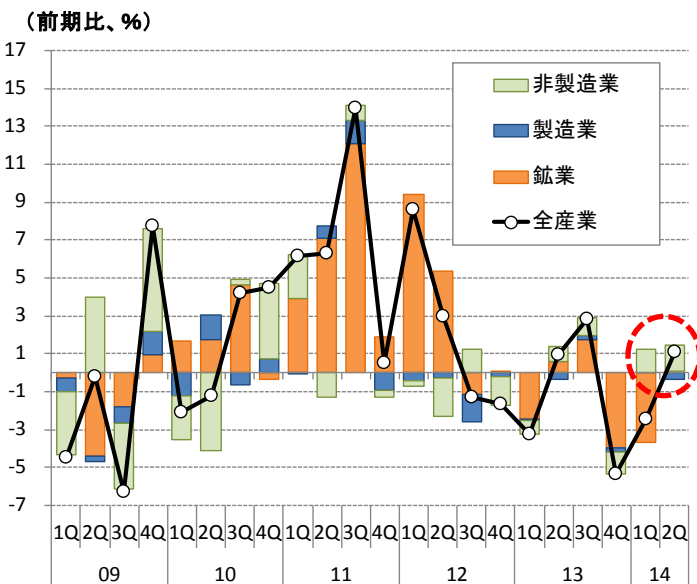
現在は中立的な先行き方針を維持するRBAの金融政策も、今後は徐々に利上げのタイミングが焦点となると考えられます。特に、豪州景気の回復が雇用増や賃金上昇に波及するかが注目されます。直近のブルームバーグ集計のコンセンサス調査によれば、多くの市場関係者は2015年上半期の利上げ転換を予想しています。

図1: 豪州の政策金利とインフレ率の推移



(出所) 豪州準備銀行、ブルームバーグ
(期間) 政策金利: 2005年1月1日~2014年9月2日
基調インフレ率: 2005年1-3月期~2014年4-6月期

図2: 豪州の民間設備投資



(出所) 豪州政府統計局 (ABS)
(期間) 2009年1-3月~2014年4-6月

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。



RBAの口先介入でも豪ドル相場は安定を維持

2014年8月中旬以降、豪ドルの対円相場は豪ドル高・円安が進行し、足元は2013年5月以来となる1豪ドル＝97円台で推移しています(図3)。足元での豪ドル高・円安の背景には、①米国の早期利上げ期待の高まりから1米ドル＝104円台へ円安・米ドル高が進行したこと、②豪ドルの対米ドル相場が1豪ドル＝0.92～0.93米ドル近辺で安定していること、の2つの要因があります。

今回のRBA理事会声明文では、「豪ドルはファンダメンタルズ価値の多くの推定値を上回っている」との言及がなされ、RBAは豪ドル高への緩やかな警戒姿勢を維持しました。一方で、最近では、RBAによる口先介入にもかかわらず、豪州への証券投資の流入を背景に、豪ドル相場は安定を維持する傾向にあります。

海外投資家による豪州債への資金流入が拡大

豪州の国際収支統計によれば、2014年4-6月の海外投資家による豪州への証券投資は+274億豪ドル(約2.6兆円*)と、1-3月の+162億豪ドル(約1.5兆円*)から資金流入が拡大しました(図4)。

資金流入の内訳は、債券投資が大半の+251億豪ドル(約2.4兆円*)を占めました。豪州国債への資金流入が4四半期連続で継続したことに加えて、4-6月期は特に銀行債への資金流入が大幅に拡大しました。世界的に金利低下が進む中で、相対的に金利水準が高い豪州債への海外投資家による投資需要が高まる傾向にあります。

(*)為替換算レート:1豪ドル=95円

利回り追求に着目した資金が豪ドルの下支え役に

他の先進国の金融政策に目を向けると、米国では2015年の利上げが視野に入りつつある一方、ユーロ圏では追加金融緩和の可能性が高まるなど、当面の世界の金融環境はなお緩和的な状態が続くことが予想されます。

足元では、豪ドル先物への投機筋の買い持ちポジションが2013年4月以来の高水準にあるように(図5)、世界的な低金利環境の中で、「相対的に高い利回りの追求」に着目した投資資金が豪ドル相場の下支え役となると期待されます。

図3: 豪ドルの対米ドル、対円相場の推移

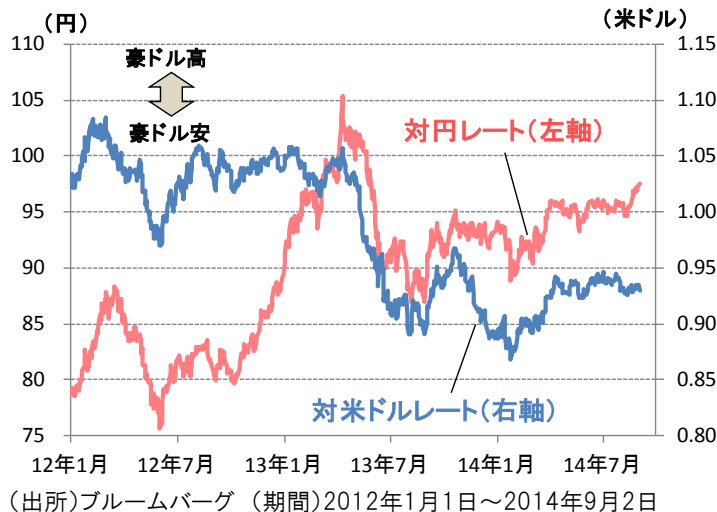


図4: 海外投資家による豪州への証券投資

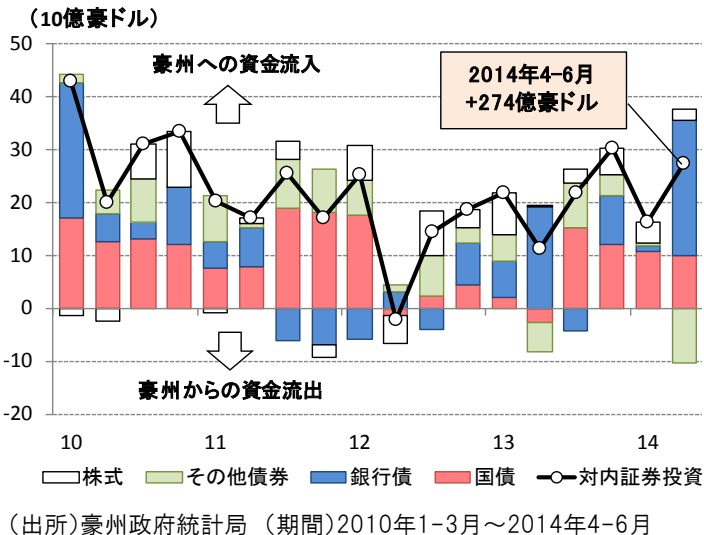
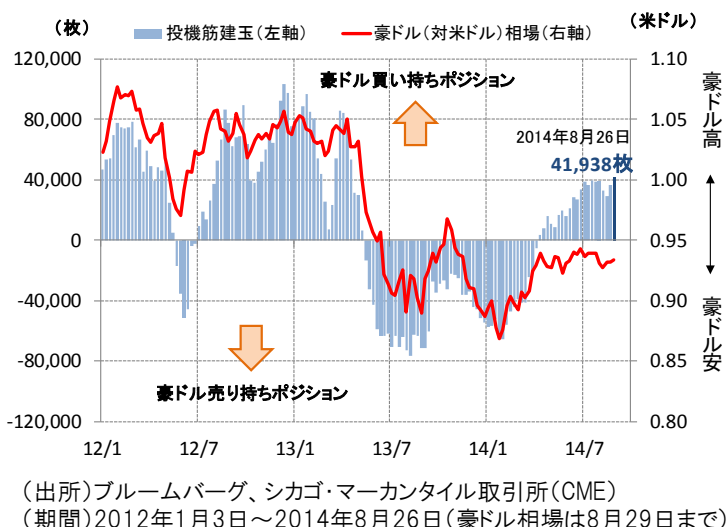


図5: 豪ドル先物に対する投機筋ポジションの推移



●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。